

野鼠捕獲器の考察

野尻・阿寺製品事業所 ○大 蔵 務
木 戸 一 夫
松 原 猛

要 旨

事業現場にある休憩施設へ出没する野鼠による食物や衣類、履物等への被害があまりにも多く発生するため、市販の鼠取器により捕獲することにした。しかし、市販の鼠取器では（金網、落とし込み式）鼠に対して網目が大きすぎ、捕獲しても遁走にあい効果が全く上がらなかった。

そこで、考えたものが空缶を利用した捕獲器である。これは、チェーンソー用オイルの空缶（18l）を利用し、改良に改良を重ね製作した物がこの野鼠捕獲器である。

これを休憩施設で使用したところ、捕獲実績が非常に良かった。

この捕獲器は身近にある空缶を利用して手軽に作ることができる。

また、経費も全くかからないこと、製作も簡単であり造林地での利用をすることにより少しでも野鼠被害が減少することを願うものである。

は じ め に

私たちの職場は、秘境として知られている阿寺溪谷を中心として、東西13km、南北5km、面積で約6,500haの広がりを持ち春は釣人、夏には若者や家族づれに人気の高いキャンプと避暑、そして秋には溪谷独特の燃えるような紅葉と一年を通して素晴らしい景観を見せて訪れる観光客を楽しませてくれる。

また、この地域に生息する動物たちも多種にわたり夫々が活発に活動をし、時にはその姿を見せ私たちに自然との触れ合いを体験させてくれる。

しかし、その半面人間達に被害をもたらしているのもこの動物たちである。

現場は、人里離れた山奥にあるためそれぞれの箇所に休憩施設が設置されている。この施設は小さな動物にとっては絶好の餌場である。休憩所を設置すると間もなくテン、タヌキ、カラス、カケス、そして鼠など小動物が集まってくる。これらの小動物の中でも特に鼠の指定席となっている。

野鼠たちな、ごく小さな穴から勝手気ままに施設への出入りをして食べ物ばかりか衣類、履物、石鹸までかじってしまうありさまで私たちは大いに被害を被ってしまった。

余りにも頻繁に被害にあってしまうので野鼠退治をすることにした。

I 野鼠捕獲の器具

1. 金網落とし込み式。
2. 金網ハジキ式罠
3. ハジキ罠。（ギロチン・トラップ）

その結果

- (1) 網目が大きい。
- (2) はじくタイミングがうまく行かない。
- (3) 仕掛ける場所が難しい。

以上のことから市販の鼠取り器ではうまく行かなかった。

II 捕獲器の概略

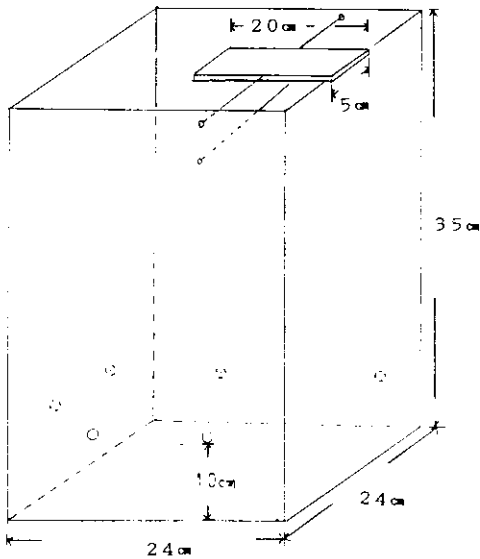
この捕獲器は、シーソーの原理を使って考えたものである。

1. シーソーの一方へ餌を付けておく。
2. 鼠が餌の方向へ進むと重心が移動して落下する。
3. 鼠が落下した後、重心が戻り餌をつけたまま板は水平になり、次の獲物を待つことになる。

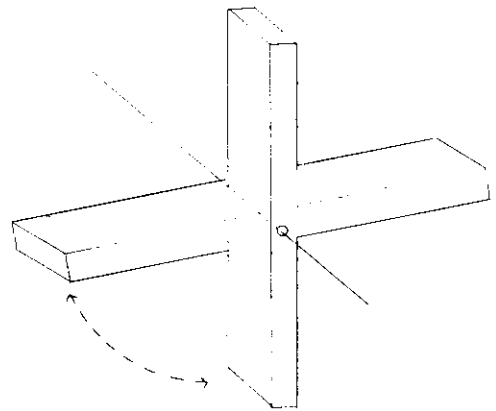
III 捕獲器の寸法

捕獲器製作の材料。

1. 空缶 1個
2. 板 1枚
長さ 幅 厚さ
(200 × 50 × 5 ~ 7) mm
太さ 長さ
針金 2本 (2 × 350) mm



図—1 シーソーボックス寸法



図—2 シーソー移動図

IV 捕獲実験箇所の概況

設置場所 木曽郡大桑村野尻阿寺国有林 60い林小班，作業場休憩施設内。

期間 8月上旬～10月下旬。

休憩施設設置場所は，天然林伐採地（皆伐）で周囲は人口林（63年生）と天然林（250年生）である。また，標高は約1.150m，林道延長距離，17kmの地点に設置した。

V 捕獲実験結果

捕獲総数 19匹，
1回の最高捕獲数 5匹， 1回。
2匹， 3回。
1匹， 8回。

以上の結果を得ることができた。特に休日明けには一度に数匹を捕獲することができた。この休憩所に於ける捕獲実験では大きな成果を上げ実験に成功した，そこで捕獲器を幼齢木造林地へ設置し野鼠の捕獲を試みることにした。

設置期間 11月10日～11月27日
の延べ18日間。

捕獲結果

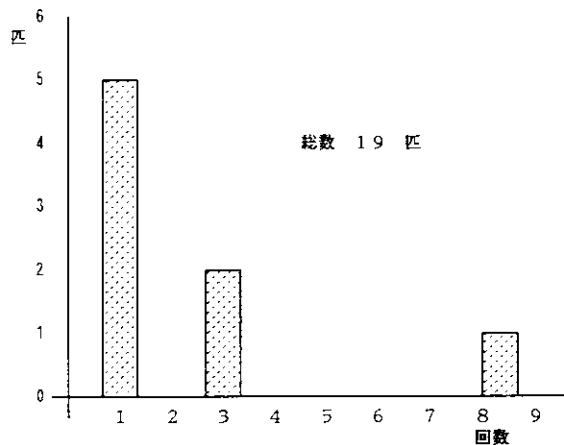
11月13日 1匹。

11月24日 1匹。

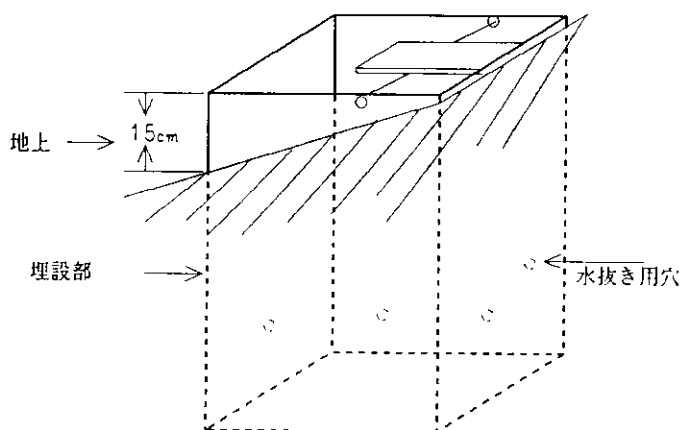
11月25日以降は降雪にあい野鼠の捕獲は，2匹に止まってしまった。

VI 野鼠について

日本に住みついている鼠はおよそ25種類とされている。この内林木に被害を及ぼす鼠は，ハタネズミ亜科のヤチネズミ，ハタネズミ，スミスネズミ，ネズミ亜科のアカネズミ，ヒメネズミである。



図一3 野鼠捕獲実績



図一四 土中埋設図

今回この実験で捕獲した野鼠の全てが、小型であり背の色は暗い鼠色で、腹部はやや白っぽい。平均的大きさは体長は62mm、尾の長さ72mm、頭部18mm程度であった。

以上のことから推測してみると捕獲したネズミは、ネズミ亜科のヒメネズミではないかと思われる。

Ⅶ 捕獲用の餌について

1. カボチャの種。
2. サツマイモ。
3. 菓子類。
4. 煮干し。

餌の結果

捕獲器を仕掛けた時期が8月から10月と野鼠にとって一番の活動期であったためか、どの様な物でも食べてしまうという感じがした。

Ⅷ シーソーボックスの利点

1. 廃棄物の利用で製作することができる。
(費用がかからない)
2. 製作が簡単である。
3. 連続の捕獲が可能である。
4. 捕獲毎に餌の取り換えをしなくても良い。

Ⅸ 製作上の注意点

1. シーソーの支点に充分注意を払う。
2. シーソーボックスの底から約10cm程度の所に数箇所の穴を開けておく。

3. 切り取った缶の縁は、良く潰しておく。

X 設置のための留意点

1. 地上では、捕獲器の安定を図る。
2. 地中へ埋める場合は、捕獲器の片側は地上と同じ高さとし反対側を15cmほど高くする。
3. シーソーに取り付ける餌の重さに注意する。(2～4g)
4. 製作前の缶は、一度火を通しておくと良い。
5. 設置した箇所は、目印をしておく。

おわりに

この捕獲器を仕掛けて実験をした結果、樹木等に対して余り影響のないとされているヒメネズミだけの捕獲にとどまってしまった。

しかし、幼齢木造林地内設置箇所や餌、時期を考え捕獲機の設置をすることにより日夜食害を続け樹木に被害を及ぼしている野鼠を捕殺できるものと確信する。

今回は、被害調査や野鼠の種類、生息調査等はしなかったが今後、美しい緑の山を育てていくためさらに調査を重ね、捕獲器の設置をすることにより、樹木の被害を食い止めることができるものと思われる。

笑い話の中のほんの小さなアイデアから生まれた野鼠捕獲器の製作であったが大きな成果を上げることができた。

私たちは、これからも小さなアイデアを大切に役立てていきたいと考えている。